

鹿ヶ谷は靈鑑寺御殿の前を東に登る、談合谷は其ひがし一町許にあり。むかし俊寛僧都の山荘あり。〔新大納言成親、平判官康頼等此所に会合し、平家を滅す陰謀を企しといふ〕如意嶽は東の峰にして、楼門瀧は大木の古松四五本の下にあり。〔鹿ヶ谷より八町ばかり東なり〕瀧の太サ一丈余にして長サ五丈許なり、雨の後には水増て近きがたし。抑此嶺は叡嶽の南に隣て、白雲嶺を埋み谷深うして万仞の青巖路を遮れり、華洛に程近といへ共衆山險難にして常に人跡稀なり。